

JRIS

鉄道車両一室内小形点検ふた設計標準

JRIS R 0214 : 2009

(JARI)

平成 21 年 6 月 25 日 制定

日本鉄道車輛工業会規格審査会 審議

(社団法人 日本鉄道車輛工業会 発行)

日本鉄道車輛工業会規格審査会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	田 中 眞 一	財団法人研友社
(委員)	米 澤 朗	国土交通省 鉄道局
	宮 本 昌 幸	明星大学
	近 藤 圭一郎	千葉大学 大学院
	古 関 隆 章	東京大学 大学院
	岡 本 勲	財団法人鉄道総合技術研究所
	新 井 静 男	東日本旅客鉄道株式会社
	加 藤 秀 一	東京地下鉄株式会社
	堀 江 富士雄	近畿車輛株式会社
	大 西 利 之	株式会社東芝
	岡 方 義 則	住友金属工業株式会社
	溝 口 正 仁	社団法人日本鉄道車輛工業会
(顧問)	井 口 雅 一	東京大学 名誉教授
(事務局)	下 村 孝	社団法人日本鉄道車輛工業会

日本鉄道車輛工業会 基準整備委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	手 塚 和 彦	株式会社テス
(委員)	佐 藤 公 一	川崎重工業株式会社
	山 口 隆	日本車輛製造株式会社
	河 口 清	近畿車輛株式会社
	川 端 俊 夫	東急車輛製造株式会社
	尾 藤 千 秋	新潟トランス株式会社
	持 留 裕 之	三菱重工業株式会社
	和 嶋 武 典	株式会社日立製作所
	石 橋 尚 之	株式会社東芝
	塩 見 省 吾	三菱電機株式会社
	尾 崎 覚	富士電機システムズ株式会社
	潤 賀 健 一	東洋電機製造株式会社
	岡 方 義 則	住友金属工業株式会社
	藤 原 達 雄	ナブテスコ株式会社
	新 井 衛	日本信号株式会社
	前 田 義 仁	株式会社京三製作所
(顧問)	田 中 眞 一	財団法人研友社
(鉄車工委員)	溝 口 正 仁	社団法人日本鉄道車輛工業会
	下 村 孝	社団法人日本鉄道車輛工業会
	宗 像 政 美	社団法人日本鉄道車輛工業会
	守 谷 文 康	社団法人日本鉄道車輛工業会

制 定 : 社団法人 日本鉄道車輛工業会 会長

掲 示 : 鉄道車両工業 ; 工業会のホームページ : URL ; <http://www.tetsushako.or.jp>

発 行 者 : 社団法人 日本鉄道車輛工業会

(〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-2 NTT-TEL ; 03-3257-1901 NTT-FAX ; 03-3257-3200

審 査 : 日本鉄道車輛工業会規格審査会

作成委員会 : 当工業会基準整備委員会

この規格についての意見又は質問は、当工業会にお願いします。

なお、この規格は、原則として5年を経過する日までに確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
1 適用範囲.....	1
2 引用規格.....	1
3 用語及び定義.....	1
4 種類.....	2
5 構造の特徴と設計上の注意点.....	3
5.1 共通.....	3
5.2 縁曲げ・窓なし点検ふた.....	3
5.3 平板・窓なし点検ふた.....	4
5.4 窓付き点検ふた.....	5
5.5 周囲縁面付き点検ふた.....	6
5.6 戸閉めコックふた（け込み板用）.....	7
5.7 ばね差込式ふた.....	9
5.8 スライド式ふた.....	9
5.9 ごみ箱投入口ふた.....	10
6 材料.....	10
解説.....	18

まえがき

この規格の前身となる **RIS 214** は、1996 年 10 月の制定以来、見直しが行われていないため、**JRIS** を制定するに当たり最新の技術内容をを中心に見直しを行い、“日本鉄道車輛工業会規格の制定に関する規程”の規定に則り“鉄車工規格審査会”の審議を経て、日本鉄道車輛工業会会長が制定した鉄車工規格である。

この規格の一部が特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。会長及び鉄車工規格審査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

参考 室内点検ふたに関する日本鉄道車輛工業会規格

番号	規格番号	名 称
1	JRIS R 0105	鉄道車両－異形ヒンジの標準
2	JRIS R 0117	鉄道車両－抜きヒンジの標準
3	JRIS R 0204	鉄道車両－大形点検ふた設計標準
4	JRIS R 0205	鉄道車両－側かもい点検ふた設計標準
5	JRIS R 0214	鉄道車両－室内小形点検ふた設計標準
6	JRIS R 1006	鉄道車両－妻かもい点検ふた設計標準
7	JRIS R 1101	鉄道車両－平ヒンジ

JRIS “R シリーズ” 制定の背景

2002（平成 14）年まで作成・整備してきた“鉄車工標準：RIS”は、1969（昭和 44）年代の車両構造の多様化の中で、車両部品の汎用品化（共通使用）、市販品の車両部品への活用などを可能にする活動の一環として、価値分析の手法の活用及びそれぞれの分野のノウハウを取り入れながら、製品仕様、設計標準、作業標準などを標準として定めてきた。近年、JIS は国際規格との整合化の方針に沿って性能規定化に移行しつつあるが、RIS は鉄道車両業界で必要とする事項を規格として定めているため、従来の RIS の制定方針に沿う標準と新しい JIS の考え方に沿う標準との複数で構成されている。

今後、我が国の進んだ技術をベースにした団体規格が、国内のみならず国外でも活用できるようにするために、2003（平成 15）年 1 月に鉄車工規格の作成・登録を公正にするための手順を定めた。この目的に沿うように、既存の“鉄車工標準：RIS”は、順次“鉄車工規格：JRIS の R シリーズ”への改組と必要な見直しを行って原案をまとめ、あらためて鉄車工審査会の承認を経て制定・登録する作業がスタートした。

改組して新規に登録する規格の番号は、従来との関連がわかるように、前身の RIS の番号の前に零（0）を加えて四桁の番号で構成する。

なお、2003 年以降新規作成・登録する“R シリーズ”の規格は、1001 番からの追い番号で登録する。

JRIS は、関係する技術分野に応じて五つに区分した体系で構成していて、この規格の“R シリーズ”のほかに、“D”、“E”、“J”及び“W”シリーズがある。

鉄道車両—室内小形点検ふた設計標準

Rolling stock—Design standard for small interior inspection lid

1 適用範囲

この規格は、鉄道車両に用いる大きさ 300×300 mm 以下の室内小形点検ふた（以下、点検ふたという。）の設計に適用する。

なお、大形点検ふたの設計標準は、JRIS R 0204 による。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

- JIS E 4001 鉄道車両用語
- JIS G 3131 熱間圧延軟鋼板及び鋼帯
- JIS G 3141 冷間圧延鋼板及び鋼帯
- JIS G 4305 冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯
- JIS G 4313 ばね用ステンレス鋼帯
- JIS G 4401 炭素工具鋼鋼材
- JIS G 4801 ばね鋼鋼材
- JIS H 3250 銅及び銅合金棒
- JIS H 4000 アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条
- JIS H 4100 アルミニウム及びアルミニウム合金の押出型材
- JIS K 6745 硬質塩化ビニル板
- JRIS J 0701 鉄道車両—繊維強化プラスチック一般
- JRIS J 0751 鉄道車両—メラミン化粧板
- JRIS R 0103 鉄道車両—内装用押出型材の標準
- JRIS R 0105 鉄道車両—異形ヒンジの標準
- JRIS R 0110 鉄道車両—押ねじの標準
- JRIS R 0117 鉄道車両—抜きヒンジの標準
- JRIS R 0119 鉄道車両—止錠の標準
- JRIS R 0204 鉄道車両—大形点検ふた設計標準
- JRIS R 1101 鉄道車両—平ヒンジ

規格概要につき以下は省略する。